

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 107

2016年11月15日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、工学部の真田 俊之 先生です。

1. 「第18回 高柳健次郎記念シンポジウム開催」のご案内

【日 時】 平成28年11月15（火） 16日（水）
【会 場】 静岡大学浜松キャンパス S-Port3階 大会議室
【参加費】 無 料

本シンポジウムは、浜松高等工業学校（現・静岡大学工学部）で研究され、「日本のテレビの父」と呼ばれている故高柳健次郎先生の業績を称えとともに、同氏の意味を受け継ぎ、イメージングサイエンスの更なる発展を目指して、研究者の集いの場として平成11年より毎年開催されています。

特に本年は、高柳先生が1926年にブラウン管に[イ]の字の表示に成功して、90年の節目の年でもあります。第18回を迎える今回のシンポジウムは、

Toward Advanced Imaging Science Creation
— Innovative Development of Nanomaterials and Nanodevices—

と題して、ナノサイエンスの研究者6名を国内外から招待し、活発な議論が行われる予定です。また、今年度からネットワーク型研究拠点として研究連携を進めることとなった、東京医科歯科大、東京工業大、広島大から代表する研究者を招き、新たな研究領域「生体医歯工学研究」に関連した最新成果の発表が予定されています。その他、電子工学研空所の研究内容の紹介や、ポスドク、ドクターコースの学生によるポスターセッションが企画されています。

【主 催】 静岡大学 電子工学研究所

【問合せ先】 静岡大学 電子工学研究所 総務係
TEL : 053-478-1301
Mail : rie-soumu[at]rie.shizuoka.ac.jp

◆ シンポジウム詳細は電子工学研究所HPよりご覧ください。
<http://www.rie.shizuoka.ac.jp/>

2. 「静岡大学食品・生物産業創出拠点 第43回研究会」のご案内

【日 時】 2016年11月30日（水曜日） 13:30-16:45
【場 所】 アクトシティ浜松 コンgressセンター 4階43-44会議室

【主催】 静岡大学食品・生物産業創出拠点
【後援】 公益財団法人 静岡県産業振興財団、静岡化学工学懇話会、
静岡大学イノベーション社会連携推進機構

【講演】

テーマ：腸内フローラ解析の進展と食品・生物産業の付加価値向上

【13:35-14:25】

1. 「食と環境要因解析」
理化学研究所 環境資源科学研究センター 環境代謝分析研究チーム
チームリーダー 菊地 淳氏

【14:25-15:15】

2. 「食品企業における腸内フローラ研究とその応用への取り組み」
味の素株式会社 イノベーション研究所 先端微生物機能研究グループ
主任研究員 亀山 恵司氏

【15:35-16:25】

3. 「腸内細菌の代謝産物ポリアミンを標的とした機能性食品の開発」
協同乳業株式会社研究所 技術開発グループ
主任研究員 松本 光晴氏

【16:25-16:45】

4. 総合討論「医食同源：健康＝腸内フローラの好適制御を食品・生物産業から支える」

【懇親会】

オークラアクトシティ浜松 45Fスカイバンケット 17:00-18:30

<参加費（当日、受付にて）>

<講演> 会員・後援団体及び学生：無料 非会員：1,000円

<懇親会> 会員 3,000円 非会員：5,000円

<参加申込み・問合せ先> 申込期日：11/22（火）

静岡大学イノベーション社会連携推進機構内

静岡大学食品・生物産業創出拠点 事務局

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL : 054-238-4361

FAX : 054-238-3018

E-mail : oshirao[at]ipc.shizuoka.ac.jp

3. 『平成28年度 精神的価値が成長する感性イノベーション拠点 公開シンポジウム』のご案内

【日時】 平成28年11月30日（水） 13:15~17:00（受付開始 12:45）

【場所】 秋葉原 UDX 4階 THEATER <http://www.udx-t.jp/>

【アクセス】 秋葉原駅 電気街口より徒歩2分
（東京都千代田区外神田4-14-1）

【特別講演】

しずだい産学連携メールマガジンVol107

『IoT、ビッグデータ、AI時代における感性情報からの確率的ユーザーモデル構築と価値共創』

：産業技術総合研究所 人工知能研究センター 本村陽一 首席研究員

本シンポジウムでは、感性イノベーション拠点におけるフェーズ1（平成25年度～27年度）の取り組みと成果と社会実装に向けた開発状況をご報告いたします。

また、特別講演では、産業技術総合研究所 人工知能研究センターの本村陽一 首席研究員から、

『IoT、ビッグデータ、AI時代における感性情報からの確率的ユーザーモデル構築と価値共創』

と題して講演いただきます。関係者のみならず、「感性」という切り口で、社会に新たなイノベーションを創出する本拠点の取り組みに関心のある方々の多くのご参加を心よりお待ちしております。

◆参考URL：<http://coikansei.hiroshima-u.ac.jp/>

【申込み・問合せ先】 http://coikansei.hiroshima-u.ac.jp/contact_form2016.html

4. 【産学官マッチング会 in 浜松 2016】のご案内

静岡TTOは県内外の大学の研究成果を地域企業の皆様にご活用いただくために、「産学官マッチング会in浜松2016」を下記の通り開催いたします。本会は、地域のご要望に合わせた研究成果をご紹介することによりその活用を促進し、地域産業の活性化に寄与するものです。科学技術振興機構（JST）による競争的資金の説明もごさいます。また、研究者との交流・情報交換の時間もごさいます。皆様のご参加をお待ちしております。

◆詳細◆

【日時】2016年12月20日（火）13：30～
【場所】アクトシティ研修交流センター5階 51研修交流室
【主催】静岡技術移転合同会社（静岡TTO）
【共催】浜松市、静岡大学、静岡理工科大学、
（公財）浜松地域イノベーション推進機構

【テーマ】「ロボット産業の基礎となる技術」

◆プログラム

*講演：国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST） イノベーション拠点推進部
地域イノベーショングループマッチングプランナー 二階堂知己 氏

「企業の研究開発/課題解決に『研究機関の力』を！」
～JSTによる産学マッチング支援・および産学連携開発支援制度について～

◆研究発表：静岡大学 教授 野口敏彦
静岡大学 准教授 伊藤友孝
静岡理工科大学 講師 鹿内佳人

※発表内容や詳細な発表時間が決まりましたら、静岡TT0のHPIにてご案内をいたします。

<http://stto.jp/>

【問合せ先】 静岡技術移転合同会社（静岡TT0）田代
メール: ip-leaf[at]stto.jp

5. 「静岡大学・中日新聞連携講座2016『浜松の過去・現在・未来』」のご案内

今年度の静岡大学・中日新聞連携講座は、大河ドラマのテーマとなる井伊直虎の実像、平成の大合併にともなう浜松のまちづくりの課題と展望、様々なイノベーション（技術革新・社会変革）の展開など、多様な切り口から浜松という地に焦点を当てる全5回です。静岡大学が誇る講師陣が、遠江の時代からものづくりの最先端都市まで、浜松の過去・現在・未来を展望します。

【日時】 12/13 1/17（火曜日18:00～19:30）
【会場】 静岡大学浜松キャンパス 附属図書館浜松分館（S-Port）3階大会議室

【定員】 100人（申込先着順）
【参加費】 無料

【申込方法】 氏名（ふりがな）、住所、年齢、電話番号、講座名、参加される回を明記して
FAX・メール・葉書のいずれかによりお申し込みください。

【申込先】 FAX : 054-252-0310
メール : LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp
葉書 : 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
静岡大学イノベーション社会連携推進機構 連携講座係

【第4回】12月13日（火）
「ものづくりに活かすナノテクノロジー ～ウルトラファインバブルの化学」
（講師）間瀬 暢之（工学部化学バイオ工学科・教授）
（概要）

目に見えない大きさの泡をキーワードとして、有機化学における最新の研究成果を紹介します。高圧を必要としない本技術は静岡県内企業との共同研究により発展しました。静岡発のグリーンものづく技術を堪能していただくとともに、ファインバブルの実演を予定していますので、理科好きの皆さん、是非ご参加ください。

【第5回】1月17日（火）
「太陽光・排熱を電気へ変換 ～エネルギーハーベスト材料の開発～」
（講師）早川 泰弘（電子工学研究所・教授）
（概要）

クリーンな自然エネルギーへの注目が高まり、無尽蔵な太陽光エネルギーを利用する太陽電池や、発電の際に無駄に捨てられている排熱を有効利用する熱電デバイスの研究が盛んに行われています。このようなエネルギーハーベスト（太陽光や照明光、機械の発する振動、熱などのエネルギー

一
を採取=ハーベストし、電力を得る技術)の開発は、二酸化炭素排出量削減や持続可能な
低
炭素社会の実現に不可欠であり、浜松でもその先端技術に関する研究が進められていま
す。
太陽電池材料や熱電デバイス材料の開発について紹介します。

【問合せ】 静岡大学イノベーション社会連携推進機構 地域連携生涯学習部門
TEL : 054-238-4817 (平日9:30~16:00)
メール : LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp

【主催】 静岡大学、中日新聞東海本社
【詳細】 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event002552.html>

6. 「グリーンサイエンスカフェ in はままつ」のご案内

平成25年4月に発足した「グリーン科学技術研究所」の教員が、
研究者の夢や失敗談、ときには笑いを交えて個々の研究を紹介します。
コーヒーを片手に、科学の話題に耳を傾けてみませんか？

【日時】 ・ 第2回 12月24日(土) 14:00-15:30
・ 第3回 2月18日(土) 14:00-15:30

【場所】 浜松科学館 1F講義室
〒430-0923 浜松市中区北寺島町256-3

【定員】 100名(事前申込先着順)
【対象】 中学生、高校生、大学生、一般市民

【講座内容】

- ・ 第2回 12月24日
(講師) 齋藤隆之 教授
セミから地球と科学を考えてみよう！
- ・ 第3回 2月18日
(講師) 原 正和 教授
植物にもストレスってあるの？

【申込み方法】 以下の3通りです。

- (1) Web申込み
浜松科学館ウェブサイトから申込み
<http://www.hamamatsu-kagakukan.jp/kouza.html>
- (2) 往復はがき
送付先：〒430-0923 浜松市中区北寺島町256-3
浜松科学館「静岡大学グリーンサイエンスカフェ」係
往信に①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)④電話番号⑤希望の講座
(複数応募可)を記入してください。
返信に宛先を記入してください。
- (3) 事務室
浜松科学館1F事務室にて申込みください。

しずだい産学連携メールマガジンVol107
※その際に、返信はがき代として52円をいただきます。

【問合せ】

浜松科学館 E-mail : hames[at]hamamatsu-kagakukan. jp
Tel : 053-454-0718

《 みんなのコラム -101- 》

記： 学術院工学専攻、創造科学技術大学院 准教授 真田俊
之

私は、混相流と呼ばれる気体や液体さらには固体が混じった流れを専門としており、その中でも分散性混相流と呼ばれる、片側の相がその大多数を占め、もう片方の相の影響で現象が劇的に変化してしまう流れを研究しています。液体中の気泡や気体中の液滴、表面に存在する微粒子の除去などがその例として挙げられます。今回は産学連携活動についてこれまでに感じた難しさと、どのように対応してきたかを紹介したいと思います。

企業との共同研究で一番感じている難しさは、そのタイムスケールの違いです。四半期ごと
に成果が求められる企業と、一年、修士の場合には二年という期間で（場合によっては教員の人生をかけて！）研究成果を挙げることを考えている大学研究室とでは、そのマッチングが非常に難しく感じます。いくらお金を積まれても、学生のやる気は季節と共に変わります。やる
気に満ちた春、学生特権である長期休暇の夏、徐々に焦り始める秋、そして追い込まれる冬、
生産性は一年を通して全く異なります。もちろん個人差もあります。皆さんも自分自身の学生
時代を振り返れば分かって頂けるのでは無いでしょうか？
一方で、先入観をあまり持たない学生との研究は、思いつかないような新しい成果を生み出します。これが大学で研究をする一番の楽しみであり魅力でもあります。

それでは、このタイムスケールの違いにどのように対応してきたか述べたいと思います。
私のところには数多くの洗浄の相談が来ますが、そのほとんどは相談のみで解決します（もしくは全く歯がたたない）。もし新たに共同研究の必要が生じた場合、企業の方で実験をしてもらい、その結果を議論するというコンサルのような形を取る場合が多いです。これは私にも企業にもメリットがあります。共同研究の費用を格安にできること、またデータは外には出ず企業に残ります。一方、私は経験値が上がり、よりたくさん事例に対応できるようになります。それとは反対に、学生と共に大学で行う実験は、かなりの長期的な視点で見てもらいます。
解決できればラッキーというような難問です。このような問題の多くは、研究でも重要な
ページ(6)

ポイントが含まれていることが多く、忘れた頃に大きな成果がでます。そのため、私が共同研究を行った企業とは5年以上続くケースが多くなっております。大学の役割は、困ったときに質問できる相手であること、信頼できる学生を社会へ供給することだと考えております。このような視点から考えれば、長いスパンでの共同研究も必要では無いでしょうか？企業の方には、うまく大学を使って欲しいと思います。

<< 編集後記 >>

11月10日（木）に静岡大学とJSTとの連携による新技術説明会がJST東京本部別館にて開催されました。大学からは5名の先生方に発表していただきました。立ち見が出るほど盛況で、総勢183名の企業の方々が来場し、発表後の個別相談にも多数のご希望を頂きました。今後、多くの連携に繋がればと思います。

また、先週の11月12日（土）、13日（日）と第17回静大祭@浜松キャンパス、第21回テクノフェスタin浜松が開催されました。晴天の秋空の中、子ども連れの親子から、高校生、地域の皆様と大勢の方が来学されていました。キャンパス内には、沢山の模擬店やイベント屋が並び学生たちの呼び声が響きわたり、熱気が感じられました。テクノフェスタではそれぞれの研究室にて、子どもを対象とした実験を開催しており、参加した子どもたちは研究室の雰囲気を楽しみながら、学生と共に嬉しそうに実験に取り組む姿が印象的でした。キャンパス内を歩く子どもたちの手には、各々が実験した成果物が握られており、充実した一日を送った様子が見受けられました。

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) まで
お願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：宮下真紀子
発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1703
URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

しずだい産学連携メールマガジンVol107

-

Copyright(c) 2008-2016

Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved